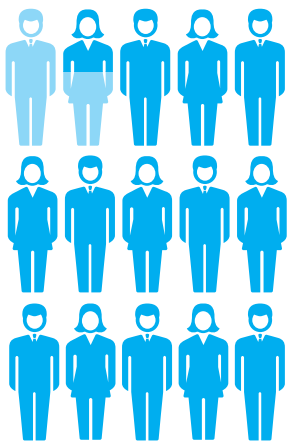


IT@Intel

インテルにおける2 in 1 デバイスの 利用増加に関する調査



2 in 1 デバイスを使用する従業員は、
当初の 1,500 人から
約 15,000 人に拡大しています。

Refael Mizrahi
インテル IT 部門
IT プログラム・マネージャー

Doron Mintz
インテル IT 部門
パーソナル・コンピューティング・
プラットフォーム・サービス・マネージャー

Anne McEwan
インテル IT 部門
UX リサーチャー

概要

2013 年以來、ノートブック PC としてもタブレットとしても使える 2 in 1 デバイスは、インテルの PC 更新サイクルで提供される標準製品の 1 つとして採用されています。インテル IT 部門では、2 in 1 デバイスは、従業員の生産性向上、総保有コストの削減、タッチ操作対応デバイスを好む従業員の満足度向上につながると予想していました。2 in 1 デバイスの利用人数も、当初のインテル製造環境の 1,500 人から、現在では会社全体の約 15,000 人にまで増加しています。

インテル IT 部門では最近、2 in 1 デバイスがインテルの従業員にとってどの程度役立っているかを評価するための調査を実施しました。その結果、他の種類のデバイスに比べ、2 in 1 デバイスが複数のユースケースで大きなメリットをもたらしていることが示されました。

この調査では、特に販売/マーケティング・グループの従業員とその他の移動の多い従業員が、2 in 1 デバイスの柔軟性からメリットを得ていることが明らかになりました。複数のデータソースのコンテンツの利用と共有に重点を置くこうした部署の従業員は、タブレットモードとタッチ機能を評価し、2 in 1 のノートブック PC モードを標準的なノートブック PC と同等とみなす傾向があり、次回の PC 更新時に 2 in 1 デバイスを選ぶ可能性が高いことが分かりました。全調査対象者の 3 分の 2 が、2 in 1 デバイスは使いやすいと考えており、全体として、インテルの従業員はそれまでに使用していた他のデバイスと同様に、2 in 1 デバイスにも満足していました。

インテル IT 部門の以前の調査で明らかになったように、テクノロジーに関しては、1 種類ですべてのニーズに対応することは不可能です。そのため、インテル IT 部門では、複数のテクノロジーの選択肢を提供することによって、従業員がそれぞれの業務とワークスタイルに最適なデバイスを選択し、生産性を最大限に高められるようにすることが重要だと考えています。2 in 1 デバイスの最大の特徴である柔軟性、携帯性、タッチ機能を好む従業員のために、IT 部門では、更新時の選択肢の 1 つとしてこのデバイスを引き続き提供していく予定です。

目次

- 1 概要
- 2 背景
- 3 従業員調査から得られた有用なインサイト
- 4 2 in 1 デバイスのケーススタディー
販売およびマーケティング
製造
新卒者の採用活動
エアシャトル
- 6 まとめ

将来のアプリケーションとデバイスをサポートする IT エコシステムの変革

インテル IT 部門では、次の5つの基準を満たすエンタープライズ・アプリケーションの開発を促進しています。これらの基準によって、快適なユーザー体験とモバイル・アプリケーション開発の効率化が実現されます。

- セキュリティ
- 使いやすさ
- プラットフォームの非依存性
- デバイスの非依存性
- 新しく登場するデバイスや操作（タッチ操作など）に対するサポート

インテル IT 部門では開発者をサポートするため、従業員への安全なモバイル・エンタープライズ・アプリケーションの提供を迅速化するモバイル・アプリケーション開発フレームワークを導入しました。2014年末には、実稼働環境に導入されたタッチ操作対応のエンタープライズ・アプリケーションが約150個ありましたが、2015年にはこの2倍になると見込んでいます。

背景

インテル IT 部門では、生産性を高めるために、従業員が多様な種類のデバイスを選択できるようにしています。モバイル化の促進によって生まれた新しいワークスタイルに合わせるため、IT 部門では、最新のテクノロジーや機能を常に調査しています。こうして見つかったテクノロジーの1つが、2 in 1 デバイスでした（図1を参照）。

2013年、インテル IT 部門は、会社が支給するPCの定期更新時の選択肢として、2 in 1 デバイスの提供を開始し、更新の対象となるすべての従業員が入手できるようにしました。2 in 1 デバイスの導入によって、次のメリットがもたらされると予想していました。

- **従業員の生産性向上**：2 in 1 デバイスは、1つのフォームファクターでノートブックPCとタブレットの両方の機能を利用できる柔軟性を備えているため、生産性を向上させることができます。移動の多い従業員や、このデバイスの柔軟なフォームファクターからメリットを得られる環境で働く従業員は、さらに効率的に仕事ができるようになります。
- **総保有コストの削減**：2 in 1 デバイスにより、2つのデバイスを購入して使用する必要がなくなる場合もあります。2 in 1 デバイスに投資して、単独のユニットに2つのデバイスを統合し、さらにタッチ機能によって将来的にこのデバイスの利用が拡大されると、総保有コストは削減されます。¹
- **タッチ操作対応デバイスを好む従業員の満足度向上**：2013年の調査では、インテルの従業員の90%が、タッチ操作非対応のデバイスよりタッチ操作対応デバイスを好んでいました。ITのコンシューマー化により、タッチ機能に対する従業員の要求が高まり続けており、こうした要求を満たすためにタッチ操作対応のエンタープライズ・アプリケーションが普及しています（「[将来のアプリケーションとデバイスをサポートするためのITエコシステムの変革](#)」を参照）。2 in 1 デバイスは、タッチ機能をもたらす1つの方法です。

¹ インテル IT 部門のホワイトペーパー「Accelerating Deployment of Touch-enabled Business Ultrabook™ Devices」（英語）を参照してください。



タブレットとしての 2 in 1 の機能

- タッチ操作
- インスタント・オン/クイックレジューム
- アプリのエコシステム
- 薄型軽量設計
- 長いバッテリー持続時間



ノートブック PC としての 2 in 1 の機能

- 生産性の高い PC 環境
- 標準 PC アプリケーション
- 複数の入力方式
- マルチタスク環境

図1. 2 in 1 デバイスは、インテルのさまざまな作業環境での使用に適したパフォーマンスと柔軟性を備えています。

2013年、2 in 1 デバイスは、製造部門の1,500人以上の従業員のメインデバイスとして先行導入されました。その後、2 in 1 デバイスの導入は社内の他のグループに拡大され、現時点では約15,000台のデバイスが使用されています。今では、更新時に従業員の25%以上が2 in 1 デバイスを選んでいきます。

2 in 1 デバイスが従業員のニーズにどの程度合っているのかを評価するために、2015年の初めに大規模な従業員調査を実施し、2 in 1 デバイスの使用例を調査しました。

従業員調査から得られた 有用なインサイト

2015年の調査は、従業員が仕事で2 in 1 デバイスをどのように使用しているかの確認を目的としていました。調査項目は次のとおりです。

- 従業員は2 in 1 デバイスにどの程度満足しているか？
- 2 in 1 デバイスは使いやすいか？
- ノートブックPCモードとタブレットモードの両方で作業できることは重要か？
- ノートブックPCモードは通常のノートブックPCを使用する場合と比べて遜色ないか？
- 従業員は次回の更新時にも2 in 1 デバイスを選ぶつもりか？

送付された2,000通の調査票のうち、500件以上の回答が得られました（回収率26%）。調査の回答者は、世界各国の10個のビジネスグループのマネージャーと個人協力者でした。

2 in 1 デバイスによって時間が節約できたかどうかを尋ね、節約できたという回答に対しては、時間の節約に貢献したのはどのような機能かを尋ねました。2 in 1 デバイスによって時間を節約できたと答えた従業員は、オン/オフの簡単な切り替え、外出先でデバイスを使用できること、タッチ機能、画面共有、バッテリー持続時間についてコメントを寄せています。

その他の従業員、特にコンテンツ制作や詳細な分析に重点を置く従業員は、2 in 1 デバイスに対してやや低い評価を下しました。ただし、調査対象となった全回答者による次の結果は注目に値します。

- 回答者の66%が、2 in 1 デバイスのノートブックPCモードでの作業は、通常のノートブックPCでの作業と比べて遜色ないと見えています。
- 65%が、2 in 1 デバイスは使いやすいと思っています。
- 22%が、時折タブレットモードで2 in 1 デバイスを使用しています（使用時間の25%以上）。このうち30%が、2 in 1 デバイスをタブレットモードで使用する人が多いと答えました（使用時間の60%以上）。
- 50%が次回の更新時にも2 in 1 デバイスを選びたいと答えました。
- 全体として、従業員は使用している他のデバイスと同様に2 in 1 デバイスに満足していました。

2 in 1 の柔軟性が
とても気に入っています。
打ち合わせでスタイラスを使って
メモを取ることで、画面越しではなく、
顧客と直接向き合うことができます。
自分のデスクに戻って
詳細な分析を行うときには、
システムをノートブックPCモードに
戻すこともできます。」

— プラットフォーム・
マーケティング・マネージャー

2 in 1 デバイスの 時間節約機能のトップ5

インテルの従業員は、時間の節約に最も役立つ機能として、2 in 1 デバイスの次の機能を挙げています。

- 迅速な起動、シャットダウン、復帰
- 携帯性
- タッチ機能
(マウスを使用しない素早いスクロール)
- 画面共有またはホワイトボード・スケッチ
- 長いバッテリー持続時間

また、従業員が使用している2 in 1に対する回答では、フォームファクターの違いについては差がないことも分かりました。インテルで使用されている2 in 1フォームファクターのサンプリングでは、回転式と折り畳み式が対象となっています。

これらの調査結果から、2 in 1デバイスにより、移動の多い従業員、またはコンテンツの制作ではなく利用に重点を置く従業員の生産性が向上することが明らかになりました。また、その他の従業員のニーズには、他のデバイスの方が適している場合があることも分かりました。こうした結果は、PCの更新時に複数のデバイスタイプ、複数のフォームファクターを引き続き提供していくことの重要性を裏付けています。例えば、デスクトップ・ワークステーションとモバイル・ワークステーションは、分析などの集約型タスクに適した高い処理能力とグラフィックス・レンダリング性能を備えています。

インテルで使用されている 主要な2 in 1デバイス



折り畳み式

ベースは従来のクラムシェル型ですが、画面が360度回転し、折り曲げるとテントモードになります。また、タブレットにもなります。



回転式

ベースは従来のクラムシェル型ですが、画面を180度回転させることで向かいに座っている相手とディスプレイを共有できます。また、タブレットにもなります。

2 in 1 デバイスのケーススタディー

インテルIT部門では、2015年の調査結果から、2 in 1デバイスに適したインテルのユースケースのその他の例を特定しました。

販売およびマーケティング

移動や社外での仕事が多い販売/マーケティング・グループの従業員が、2 in 1デバイスから最も多くのメリットを得ていることが分かりました。彼らは、次の設問項目に対して最も肯定的な回答を示しました。

- 73%が、2 in 1のノートブックPCモードの使用は、通常のノートブックPCを使用する場合と比べて遜色ないと答えました。
- 69%が、次回の更新時にも2 in 1デバイスを選びたいと答えました。
- 63%が、2 in 1デバイスでの体験はこれまで使用していたノートブックPCでの体験よりも快適であると答えました。
- 53%が、タブレットモードで作業を行っています。

これらの従業員は、コンテンツを制作するのではなく、コンテンツを利用する際にタブレットモードを活用する傾向が見られました。主な作業内容には、ドキュメント、スプレッドシート、プレゼンテーションの閲覧またはレビュー、ビデオ、トレーニング・クラス、Webキャストの視聴、電子メールの閲覧などがありました。

製造

製造部門の従業員は、2 in 1デバイスをメインデバイスとしていち早く導入しました。彼らを対象とした2014年の調査では、使いやすさについて全体的に高く評価されており、2 in 1デバイスが特に適しているユースケースに関するインサイトが得られました。

この調査から、工場の内外で仕事をする従業員は、会議への出席、ツールのメンテナンス作業、現場での作業、コンテンツ(仕様や手順など)の利用など、状況に応じてタブレット構成を選んでいることが明らかになりました。製造部門の従業員は、調査の回答で、「メンテナンス作業中に、リアルタイムで手順や仕様を確認するにはタブレットが欠かせない」「製造工場で設備類の構成を監査するのに役立つ。タブレットモードにすることで、設備の周りを歩きながら画像やドキュメントを参照できる」と述べています。

一方、詳細なデータ入力やデータ分析など、デスクワークではノートブックPC構成(キーボード付き)が好まれました。

新卒者の採用活動

インテルの人事部マネージャー・グループは、年に数回、30校以上の大学を訪問し、年間最大30,000人の学生とのミーティングの機会を持っています。これらの訪問中に、マネージャーは学生と面接し、インテルでの可能性について伝え、人材を探し、学生からデータを収集しています。

マネージャーたちは従来、タブレットとアプリケーションを使用して学生から基本情報を収集していましたが、昨年、2 in 1 デバイスの使用によって生産性が大幅に向上することが判明したことで、人気の高いこのデバイスに切り替えました。2 in 1 デバイスは汎用性を備えています。例えば、タブレットモードに切り替えることで、学生は列に並んでいる間に、必要な情報を入力できます。また、マネージャーは、通常の処理や詳細なデータの入力にはノートブックPCモードとフルキーボードを使用しています。

セッション当たり600～700人の学生と会うある人事部マネージャーは、学生が2 in 1 デバイスに対して好意的な反応を示していると述べています。学生は、2 in 1 デバイスを「かっこいい」と思っており、最新のテクノロジーを目にし、使用する機会を得たことを喜びます。

エアシャトル

インテルでは、インテルの主要施設間のフライトサービスを従業員に提供しています。エアシャトル・サービスでは、これらのフライト中にWi-Fi*を提供し、従業員に2 in 1 デバイスを貸し出しています。

この貸出プログラムにより、従業員は2 in 1 デバイスと最新のインテル®アーキテクチャーを体験する機会が得られます。「購入する前に使ってみる」機会を提供することで、従業員は次回の更新時に2 in 1 デバイスが自分にとって最適な選択肢かどうかを判断できます。従業員はデバイスを実際に使って、タッチパッドやコンパクトサイズなどの長が仕事でどのように役立つかを確認できます。

また、2 in 1 デバイスにより、従業員はフライト中もオンライン状態と生産性を維持することができ、タブレットモードを使用することで、物理的に狭い空間でも快適に仕事を行うことができます。



フィールドレポート： 2 in 1 デバイスに関する インテル従業員の声

インテルの従業員が2 in 1 デバイスをどのように捉えているかについて質問した自由回答形式のアンケートへの回答例を以下に示します。これらの回答は、一部のグループが大きなメリットを享受していることを裏付けています。

- 「軽量で携帯性に優れていて、データや電子メールにアクセスしやすくなりました」
- 「使用しているアプリケーションにタブレット向けのものがもっとあれば、タブレットモードがさらに役立つと思います」
- 「プロジェクターに接続せずに画面を適切に共有できること、携帯性、タッチスクリーン、サイズ、どこにでも持ち運びできることで、時間を節約できます」

「2 in 1 はライフセーバーです」

— インテル人事部マネージャー
(大学での採用活動で)

まとめ

インテルIT部門では、2 in 1 デバイスにより、従業員の生産性向上、総保有コストの削減、タッチ操作対応デバイスを好む従業員の満足度向上が可能になると予想し、この2年間、更新時の選択肢の1つとしてこのデバイスを提供してきました。その後、2 in 1 デバイスを使用する従業員は、1,500人から15,000人に増えました。

製造部門の技術者とエンジニアを対象に行った初期調査では、使いやすさについて全体的に高い評価が得られました。最近の調査とケーススタディーでも、従業員がこのデバイスに満足しており、使いやすいと思っていることが分かりました。特に、移動の多い従業員、販売/マーケティング部門の従業員は、2 in 1 デバイスから最も多くのメリットを得ています。彼らからは、タブレットをかなり使用していること、ノートブックPCモードに非常に満足していること、次回の更新時も2 in 1 デバイスを選びたいと思っていることが報告されています。さらに開発されるタッチ操作対応のエンタープライズ・アプリケーションの増加に伴って、2 in 1 デバイスが提供するデュアルモードに大きな価値を見出す従業員が増えることが予想されます。

インテルIT部門では、従業員がメインデバイスとして2 in 1 デバイスを選択できるようにするという現在の戦略を、今後も推進していきます。職場が進化して新たなワークスタイルが登場する中で、従業員はそれぞれのニーズに最適なデバイスを手続き、デバイスはIT部門の求める運用管理機能とセキュリティ機能を提供できるように、デバイスタイプとフォームファクターの評価も引き続き行っていく予定です。

IT@Intel

IT@IntelはITプロフェッショナル、マネージャー、エグゼクティブが、インテルIT部門のスタッフや数多くの業界ITリーダーを通じ、今日の困難なIT課題に対して成果を発揮してきたツール、手法、戦略、ベスト・プラクティスについて詳しく知るための情報源です。詳細については、<http://www.intel.co.jp/itatintel/>を参照してください。あるいはインテルまでお問い合わせください。

関連情報

関連トピックの情報については、<http://www.intel.co.jp/itatintel/>を参照してください。

- ホワイトペーパー「Accelerating Deployment of Touch-enabled Business Ultrabook™ Devices」(英語)
- ホワイトペーパー「工場におけるモバイル・コンピューティングが証明する2 in 1 デバイスの企業価値」
- ホワイトペーパー「IT環境が進化しても変わらないPC更新サイクルの重要性」

インテルIT部門のベスト・プラクティスの詳細については、<http://www.intel.co.jp/itatintel/>を参照してください。

インテル® テクノロジーの機能と利点はシステム構成によって異なり、対応するハードウェアやソフトウェア、またはサービスの有効化が必要となる場合があります。実際の性能はシステム構成によって異なります。詳細については、各システムメーカーまたは販売店にお問い合わせいただくか、<http://www.intel.co.jp/>を参照してください。

本書に記載されている情報は一般的なものであり、具体的なガイダンスではありません。推奨事項(潜在的なコスト削減など)はインテルの経験に基づいており、概算にすぎません。インテルは、他社でも同様の結果が得られることを一切保証いたしません。

本資料に掲載されている情報は、インテルの製品およびサービスの概要説明を目的としたものです。本資料は、明示されているか否かにかかわらず、また禁反言によることによらずにかかわらず、いかなる知的財産権のライセンスも許諾するものではありません。製品に付属の売買契約書『Intel's Terms and Conditions of Sale』に規定されている場合を除き、インテルはいかなる責任を負うものではなく、またインテルの製品およびサービスの販売や使用に関する明示または黙示の保証(特定目的への適合性、商品適格性、あらゆる特許権、著作権、その他の知的財産権の非侵害性への保証を含む)に関してもいかなる責任も負いません。

Intel、インテル、Intelロゴ、Ultrabookは、アメリカ合衆国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

* その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

インテル株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1

<http://www.intel.co.jp/>

©2015 Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。

2015年10月

333126-001JA

JPN/1510/PDF/SE/IT/TC

